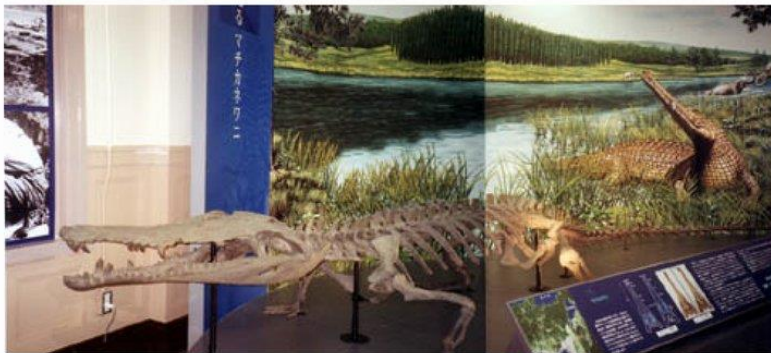


# 大阪大学総合学術博物館(豊中キャンパス)

日時: 2005.6.4 1400~



豊中キャンパス イ号館



マチカネワニの標本

**学名:** *Toyotamaphimeia machikanense* (Kamei and Matsumoto). 1965年に小島信夫ほかにより学名 *Tomistoma machikanense* Kamei et Matsumoto, 和名は発見地、待兼山にちなんでマチカネワニという新種のワニとして命名された。1983年に青木良輔が再検討して新属・新種として *Toyotamaphimeia machikanense* を提唱した。

**発見:** 1964年5月大阪大学理学部(現在:大阪府豊中市待兼山町1-1)の新校舎建設の工事現場(標高77.3m)で、貝化石を採集に来ていた大原健二・人見 功の両氏(当時18才)が、ろっ骨の一部を発見したことに始まる。その後、大阪大学・京都大学・大阪市立大学・神戸大学・大阪市自然博物館などの研究者や学生によって、6月、9月、12月に発掘調査が行われた(図1)。わが国最初のワニ化石の発見であった。



薬学部 米田助教授の案内

写真/三戸、編集/平山